

## 評価結果報告書

### 1. 評価の視点

2歳児「保育室を走り回る子、戦いごっこで力加減ができない子、手が出てしまう子への対応はどうしていますか？」

### 2. 分科会評価者からの意見、感想、アドバイス

好きな物を自由に取り出せる環境の中、それぞれが好きな場所、遊びを見つけて、どんどん遊びだすことができる。2学期になり、友だちへの意識が高まり、関わって遊ぶことが多くなってきた。活発で元気な子が多く、保育室を走り回ったり、戦いごっこでの力加減が難しい子もいます。また、友だちへの関心の高まりや自分の遊びが広がってきたこと、言葉がうまく出ないことなどで、手が出てしまう子もいる。遊びを深めながら、友だちと関わることの楽しさや思いやりをいろいろな経験を通して成長して欲しいと願っている。

分科会では2つのグループに分かれ、最初に問いについての意見を付箋に記入してもらい、たくさんの意見や話が聞けるようにした。

走り回ってしまう子に対しては、「保育室では跳ねる、くぐるなど、走る以外に体を動かせるものを用意している。(ジャンピングマットの使用)」「子どもが簡単に動かせるパーテーションをうまく利用する。」「走り回りたいときは戸外やホールに誘う。」などの意見を聞くことができた。また、「2歳児なので、多少走り回ってもよいのではないか。」という意見もあり、子どもの行動を否定的に捉えるのではなく、肯定的に受け止めていて、とても印象深かった。子どもたちの様子を見ながらその都度環境を工夫し、整えていくことの大切さを改めて感じた。

戦いごっこで力加減ができない子への対応については、「遊びがエスカレートしてしまい、強くおしてしまうこともある。そんなときは簡単にわかりやすく伝えるようにしている。」「少々、痛い思いを経験することもよいのではないか。今は兄弟が少ない子も多いので、いろいろな経験をして人との接し方を覚えていく」という意見もあった。先ほど同様、肯定的な捉え方を聞いて、日々の保育にゆとりを持ち、子どもの様子をみたり、向かい合う時間を大切にしようと感じた。

手が出てしまう子への対応については、手が出る子の特徴として「理由あり」「理由なし」に分かれるが、理由があって手が出る子には、「気持ちに寄り添うことを大事にしている。」理由なしに手が出る子は「友だちとの関わり方がわからない子が多いので、保育者と一緒に相手の子を優しく抱きしめて、喜んでいる姿を見せる。相手の子に優しくできたことを褒める。ということを繰り返すと、手が出ることが減った。」という実践例を聞くことができた。言葉だけではなく、一緒に行動することでより子供に伝わりやすく、心に響くのだなと感じた。

最後に、共感できること、感想として、「保育者の声掛けのタイミングがよかった。子どもの気付きをうまく引き出せている。」「先生主体の保育ではなく、子ども主体の保育がよかった。」「好きな時におやつを食べられるところがよかった。」「子どもが好きな遊びを選べる環境がよかった。」「保育者や友だちと会話を楽しみながら、和やかな雰囲気での散歩がよかった。」など、たくさんの意見を聞くことができた。普段から子ども主体の保育や思い思いの遊びの時間、散歩は2歳児の保育の中心になっている活動なので、そのことで他園の先生に認められ、共感してもらえたことは大きな自信へとつながった。今回の公開保育の経験を生かし、今後も職員で協力しながら子どもの成長を見守っていきたい。